



鹿田小だより



元気いっぱい 勉強こつこつ 親切ハートの
岡山市立鹿田小学校



令和2年度 第7号 7月22日



もうすぐ夏休み！



緊急事態宣言、1か月に及ぶ臨時休校、学校再開後の新しい生活様式など、新型コロナウイルスのため、大きく揺れた1学期が終わろうとしています。今までとは大きく違う学校生活ではありましたが、子どもたちは落ち着いて生活し、集中して学習に取り組むことができました。これも、毎日の検温や健康観察、水筒の用意など、保護者の皆様のご理解・ご協力のおかげだと感謝いたしております。ありがとうございました。今年の夏休みは8月1日から8月25日までで、例年よりも3週間程度短くなりました。新型コロナウイルスの影響で、お祭りなど地域のイベントもその多くが中止や延期になりました。夏休みもいつもと違う夏休みになりますが、少しでも楽しい思い出が残せるよう、工夫して過ごしてほしいと思います。今年も中庭にヒマワリが咲きました。今年の花は大きくはありませんが、グリーンと背を伸ばし、少し上を向いて咲いている、凛とした姿を見ていると力が湧いてきます。8月26日の始業式に、このヒマワリのような子どもたちと会えるのを楽しみにしています。



夏休みをチャンスに！

子どもと過ごす「この夏」の楽しみ方について、法政大学教授渡辺弥生さんをはじめとした教育学や発達心理学の専門家が、次のようなヒントを示してくれています。子どもたちが大好きな夏休みを、家族と過ごす中で、学校ではできない体験を通して、個性を伸ばすチャンスとしていただけたらと思います。

◎親が前向きな気持ちになろう

親がイライラしていると、「情動感染」が起こり、しぐさや表情を通して、気持ちが子どもに伝わります。親自身が「子どもと一緒に、いい夏休みを過ごそう」という意識をもつことが大切です。

- 親が全力で楽しむ。親の楽しんでいる姿とともに、子どもも一緒に楽しむ。
- 夏だからこそ暑さを満喫する。汗をかけることの楽しさ、日本の夏を感じる。
- セミの鳴き声、海や空の色、花の香り…五感を研ぎ澄まして、夏を体験する。



◎共感の言葉と行動で応答しよう

子どもが発する言葉には、いろいろな感情が隠れています。その言葉だけを受け取って叱ったりせず、共感の気持ちを伝えることが大切です。また、具体的な声かけや行動を示すことは、子どもが人と関わっていくコツ（ソーシャルスキル）を身に付けることにつながります。

◎身近な「なぜ？」と一緒に考えよう

夏休みは、学校では体験できない学びを生活の中で得るチャンスです。例えば、一緒にカレーを作ったり、工作をしたりなど、一緒に考えたり、やってみたりすると、知らないことが分かってワクワク楽しい体験につながっていくと思います。



◎読書で思いやりの心を育もう

幼少の子どもは、自分の立場でしか物事を考えられないと言われます。しかし、成長と経験の積み重ねの中で、自分が好きな人の気持ち、さらには知らない人の立場も想像できるようになっていきます。本は「他者への思いやり」を知る教科書です。一緒に本を選んだり、読んだりすることで、多様な価値観を育んでいくことにつながっていくと思います。

6年生の廊下に

6年生の廊下に顕微鏡が1台置いてありました。覗いてみましたが真っ暗で何も見えません。顕微鏡の上に紙が貼ってあり、「倍率は300倍」「反射鏡を調節して明るくすること」と書いてありました。やってみると…見えました、見えました！コーヒード豆のような「気孔」（葉っぱの表面にある水蒸気が出ていく穴）です。6年生の子どもたちも次々に立ち止まっては、覗き込んでいました。顕微鏡を置いたのは6年生に理科を教えている松村先生です。理科離れが心配されていますが、理科への興味関心をもたせるためのよい工夫だと思いました。



学校長のつぶやき ～世界で一番短い手紙～

世界で一番短い手紙を知っていますか？それは「？」と「！」です。この「？」という手紙を書いたのは、『レ・ミゼラブル』の著者として有名なヴィクトル・ユーゴーです。1862年に『レ・ミゼラブル』を出版したユーゴーは、海外旅行へでかけました。しかし、出版した『レ・ミゼラブル』の売れ行きが気になったユーゴーは、海外から出版社に宛てて手紙を送ったのです。出版社に届いた手紙を開いてみると、便せんの中の真ん中に「？」とだけ書かれていました。ユーゴーの伝えたかったことがすぐに分かった出版社は、同じく便せんの中の真ん中に「！」とだけ書いて返信をしたのです。ユーゴーが書いた「？」は、「本の売れ行きはどうだい？」。出版社が送り返した「！」は、「順調に売れています！」という意味だったのです。たった一文字の中にそんな意味が込められていたんですね。では、どうしてそんな会話が成立したのでしょうか。それは、お互いが相手のことをよく理解していたからではないでしょうか。私たちは文字や言葉を使って、自分の考えや気持ちを相手に伝えようとしています。しかし、文字や言葉だけで、すべてを正確に伝えることはなかなか難しいものです。そこで私たちは、文字や言葉と同時に表情やしぐさ、声の調子、さらには、その人の人柄や普段の行動など多くの情報から、その文字や言葉に込められた本当の意味を見つけていくのだと思います。相手のことを大切に思う気持ち、思いやる気持ちが大切なのですね。



成長日記 パート4

【1年生 あさがお】



7月になり、どの植木鉢にもたくさんの花が咲いています。なかには一度に15輪ほど咲いた鉢もあります。夏休みも続けて観察し、種を取る予定です。

【2年生 ミニトマト】



トマトが真っ赤に色づきました。1日に10個以上収穫できた子もいて、うれしそうに持ち帰っていました。今後は家でお世話を続けます。

5年生 かえで学習

5年生のかえで学習は「環境問題」に取り組みました。地球温暖化や絶滅危惧種など、一人一人が自分でテーマを決め、インターネットなどを使って調べました。調べたことは、プレゼンテーションソフトを使ってまとめ、発表しました。写真は、発表会の様子です。一人一人が目の前の画面に映し出された友達のプレゼンを、食い入るように見つめています。その様子は、まるで会社のペーパーレス会議のようでした。

現在岡山市では、全児童に一人1台のノートパソコンを配置するよう、準備が進められています。子どもたちを取り巻くICT環境はどんどん整ってきています。

今から50年前、私が想像していた「未来の学校」に近づいてきました。



6年生の廊下に

6年生の廊下に顕微鏡が1台置いてありました。覗いてみましたが真っ暗で何も見えません。顕微鏡の上に紙が貼ってあり、「倍率は300倍」「反射鏡を調節して明るくすること」と書いてありました。やってみると…見えました、見えました！コーヒード豆のような「気孔」（葉っぱの表面にある水蒸気が出ていく穴）です。6年生の子どもたちも次々に立ち止まっては、覗き込んでいました。顕微鏡を置いたのは6年生に理科を教えている松村先生です。理科離れが心配されていますが、理科への興味関心をもたせるためのよい工夫だと思いました。



学校長のつぶやき ～世界で一番短い手紙～

世界で一番短い手紙を知っていますか？それは「？」と「！」です。この「？」という手紙を書いたのは、『レ・ミゼラブル』の著者として有名なヴィクトル・ユーゴーです。1862年に『レ・ミゼラブル』を出版したユーゴーは、海外旅行へでかけました。しかし、出版した『レ・ミゼラブル』の売れ行きが気になったユーゴーは、海外から出版社に宛てて手紙を送ったのです。出版社に届いた手紙を開いてみると、便せんの中の真ん中に「？」とだけ書かれていました。ユーゴーの伝えたかったことがすぐに分かった出版社は、同じく便せんの中の真ん中に「！」とだけ書いて返信をしたのです。ユーゴーが書いた「？」は、「本の売れ行きはどうだい？」。出版社が送り返した「！」は、「順調に売れています！」という意味だったのです。たった一文字の中にそんな意味が込められていたんですね。では、どうしてそんな会話が成立したのでしょうか。それは、お互いが相手のことをよく理解していたからではないでしょうか。私たちは文字や言葉を使って、自分の考えや気持ちを相手に伝えようとしています。しかし、文字や言葉だけで、すべてを正確に伝えることはなかなか難しいものです。そこで私たちは、文字や言葉と同時に表情やしぐさ、声の調子、さらには、その人の人柄や普段の行動など多くの情報から、その文字や言葉に込められた本当の意味を見つけていくのだと思います。相手のことを大切に思う気持ち、思いやる気持ちが大切なのですね。

